

活気と潤いがあり、みんなが「育つ」学校を目指して

## 自分の一歩 みんなの一歩

校長室だより II

朝霞市立朝霞第一小学校

令和3年7月19日

No.38 (合同No.14)

校長 野口 邦彦

「正しく使うためには」「できるけど、やらない」

## その力を、どう身に付けさせるか



タブレットを使い始めて、予想通り、子ども達は「正しくない使い方」が見つかりました。例えば「今の生徒指導」、スマホというアイテムが、この世になかったら、今の生徒指導の1/3は起きていないと思います。(その原因がスマホ内でのいざこざである場合も多い。)例えば「ハサミ」、ハサミは危険だから小学生には使わせないのか、そんな訳にはいきません。

ICTは、我々の生活の中に確実に入り込んでおり、今後ますます発展していくと思います。そんな世界で、将来生きていく子ども達、ICTの活用能力は必須能力かもしれません。

そんな将来を見据えて始まったGIGAスクール構想、タブレットは便利なツールであると同時に、功罪両面あるツールでもあります。色々な事ができるからこそ、その可能性は無限大とも言えますが、使い方によっては、人を傷つけてしまったり、犯罪に手を染めてしまう事にもなりかねないツールでもあります。しかし、色々なものが便利になっていく世の中において、「危険な部分があるから使わせない」ということが難しい時代になっているのも事実です。

例えば、各家庭において小学生にスマホを持たせるかどうかという問題、一昔前までは「うちは絶対に小学生までは持たせない」といった家庭の方針で指導ができたかもしれません。しかし、内閣府の調査によると自分専用のスマホを持っている小学生は約4割もいるとのこと。安全面で持たせる家庭が多くなってきている一方、PISA(国際学力調査)の結果を見ると、その活用状況の国際比較では、日本の子どもは「ICTをゲームやユーチューブなどで使用する率が多いが、学習で用いるケースが少ない」とのデータも出ております。楽しいことには、どんどんのめり込むのは小学生として致し方のないこと。だからこそ、「正しい使い方」をいかに教えていくか、「色々な事ができるけど、やってはいけない事もある」ということをいかに教えていくか、それが一番大事なのだと思います。大人ですら、ユーチューブにとんでもない画像をあげてしまったり、SNSに不適切な文章をのせてしまう現在です。「危険だから、危ないから使わせない」というよりは、「使いながら」共に「(正しい) 使い方を考えていく」そういった方向性が大切なのではないでしょうか。

GIGAスクール構想は、単にICTを活用できる操作方法を覚えるだけでなく、学校と家庭が連携して、将来に向け「正しい使い方」を学んでいく事も大切です。

人間は新しいおもちゃが手に入ると、使いたくなる。それを使わないという強い意志が今、試されている。人間には…。

～映画「空母 いぶき」より～